

通一伊本事務官へ

第一課長



別紙添付



亞一機密第四七六號

昭和七年七月二十八日

外務省亞細亞局長 谷正之

大藏省理財局長 富田勇太郎 殿

滿洲國ノ農民金融機關組織要綱外五法案ニ關スル件

本件ニ關シ今般在長春田中領事代理ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付爲後參考右茲ニ送付ス

外務省

寫

7.6  
0 344

寫

機密公第三八五號

昭和七年六月二十四日

在長春領事代理田中正一

外務大臣子爵齋藤實殿

農民金融機關組織要綱外法案ニ關スル件

民政部地方司財務課ニ於テハ豫テヨリ農村經濟改善ニ關シ農民金融機關組織要綱外五法案ヲ立案中ノ處今回成案ヲ得近ク法制局ノ審議ヲ經テ閣議ニ附スル管ナルカ右草案別冊ノ通り何等御參考迄送付ス  
本信寫送付先 奉天 吉林 哈爾濱 間島 鄭家屯 安東  
牛莊 鐵嶺 遼陽 齊々哈爾

外務省

7.6  
0 345

農民金融機關組織要綱案

地方司 財務課

農民金融逼迫ハ直接的應急手段ヲ求メツツアルカ之カ對策ヲ講シツ  
ツ同時ニ半永久的救濟策ヲ樹立セントスルノカ本案ノ主旨テアル  
是カ爲メニハ各方面ニ其ノ必要ヲ叫ハルル農民金融組合ヲ最上策ト  
信スル然シ從來ノ實績ニ鑑ミルニ組合資金固定化シテ運轉圓滑ヲ缺  
キ且都市商工資金トシテノ流出甚大ニシテ成績豫期ノ如カラサルヲ  
遺憾トスル即將來組合經營ノ最關心事ハ農業資金流出防止農付ヘノ  
還元及投下資本固定化防止ニアル

本案ハ勸業銀行ヲ樞軸トシ農民金融組合ヲ地方機關トスル一環ヲ形  
成シテ上述弊害ニ備ヘ更ラニ農民共同販賣組合ヲシテ農業倉庫ヲ經

外務省

0 346

營セシメル事ニセリ穀價調節ヲ行ハシメ以テ金融ノ圓滑ヲ企圖シ農  
民共同購買組合ヲシテ農業經營ノ大農化ヲ計ラシムルモノニシテ之  
等ノ機關ノ有機的相關活動ニヨツテ一國農業ノ合理的統制經營ヲ促  
進セント欲スルモノテアル

其ノ第一着手トシテ先ツ金融組合ヲ可及的急速ニ組織化シ成ルヲハ  
カツテ其ノ資金供給機關トシテ勸業銀行ヲ創設シ更ラニ是等ヲ基礎  
トシテ販賣組合購買組合組成ニ着手セントスルモノテ以下直接的問  
題タル金融組織ヲ中心トシテ之ヲ分説スル

金融組合

資金流通ノ圓滑及回收ノ確實ヲ計ランカ爲メ中央機關タル勸銀設立  
ニ先立テ先ツ金融組合ヲ組織スル

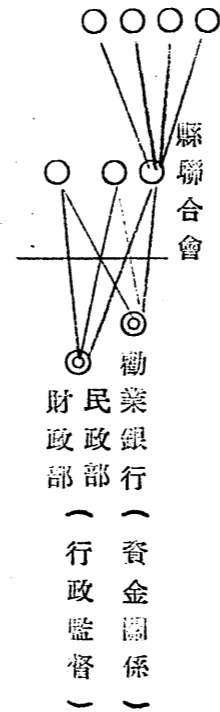
外務省

0 347

將來一區一組合ヲ目標トスルモ差當リ自治指導委員會ノ成立セル縣ヨリ着手スルモノトシ之ヲ百縣トスレハ一縣當リ五萬圓計五百萬圓ヲ創立資金及當初ノ事業資金トシテ政府ヨリ補助ス

1 組織

區金融組合



外務省

7.6

0 348

2 區金融組合

A 事業

貸付 | 擔保貸 共ニ現金貸トス  
信用貸 預金

B 資金 出資金、預金、借入金

資金調達ノ最大ヲナスヘキハ借入金ニシテ組合ノ信用借款ノ外組合員所有ノ不動産ヲ抵當トシテ債券ヲ縣聯合會ノ認可ヲ受ケテ發行スルモノトシ勸業銀行ニコノ債券引受ノ第一次義務ヲ負ハシムルモノトス

債還責任ハ組合ニテ負ヒ減債基金制度ヲ置ク

0 組合員義務、出資、各自借入金ノ償却、年賦濟崩法

但シ所屬組合發行ノ債券ヲ以テモ之ヲナスコトヲ得

外務省

7.6

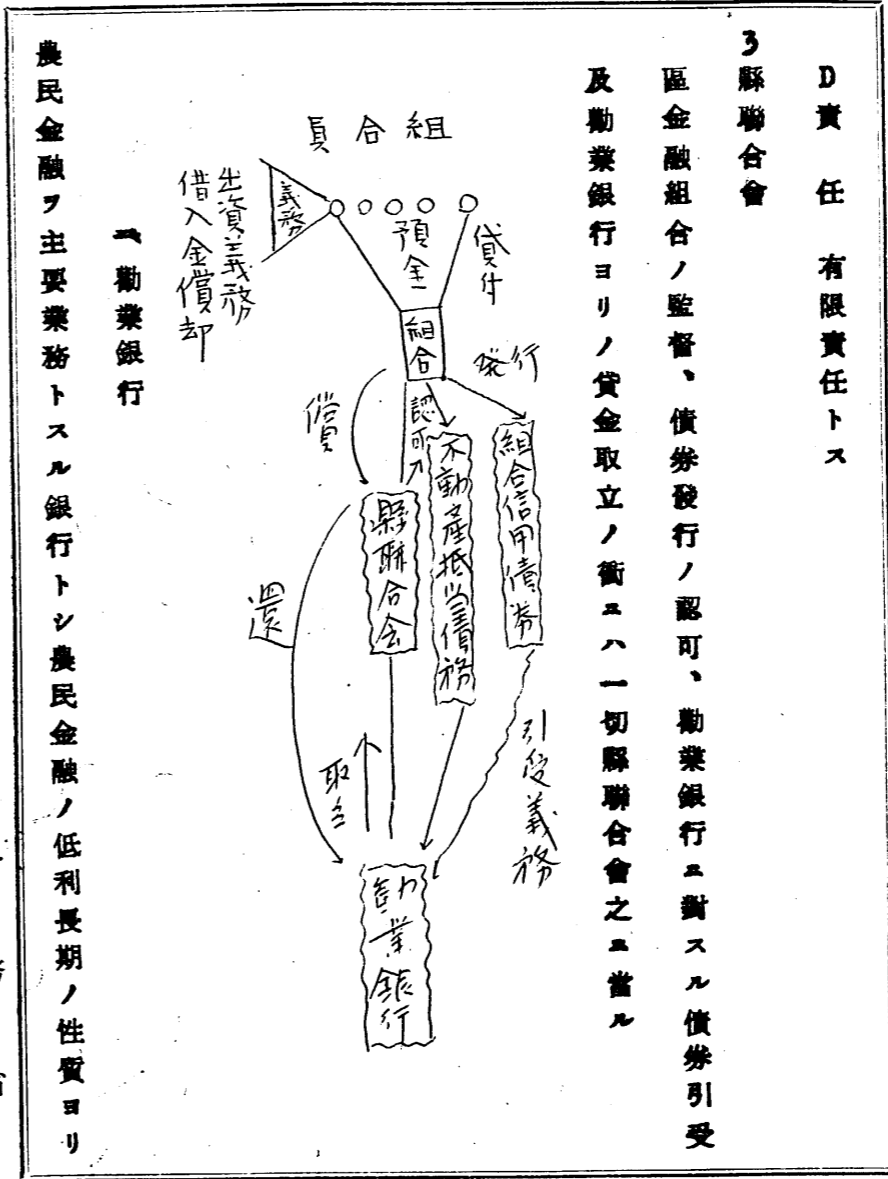
0 349

シテ創業後一定年間ハ農民金融組合ヲ對象トスル事業ノミ之ヲ營ミ  
 金融組合ノ基礎確立ヲ待チテ後一般不動産抵當貸付ヲ營ムモノトス  
 尙金融組合發行ノ債券ニ對シテハ第一次引受義務ヲ負擔スル代償ト  
 シテ富籤附勸業債券發行權ヲ賦與ス

7.6

0 351

は(1)



7.6

0 350

は(1)

1 組織 株式會社但シ幹部ハ政府任命シ政府ノ監督ニ服ス

2 資本金 壹千萬圓 一株五拾圓 金貳拾萬株  
全額中央銀行引受ケ

3 配 當 十年間無配當(但シ將來増資ニヨリ生スルコトアルヘキ  
民間持株ハ有配當トス)

4 營 業 不動産抵當貸付ヲ主トシ一般銀行業務ハ營ムモ金融組合  
ニ對スル關係ハ次ノ如シ

金融組合發行債券ヲ引受ケ(擔保ハ組合員ノ不動産)取  
立ハ縣聯合會ニ對シテ之ヲナシ縣聯合會ハ償却額ヲ區金  
融組合ヨリ取立テ之ヲ勸銀ニ償還ス滯納ノ場合ハ直接組  
合ニ對シテ強制處分ヲナス

外 務 省

0 352

一 販賣組合、購買組合

金融組合ヲ基礎トシ數縣聯合會合同ノ下ニ政府ノ補助金ヲ得テ主要  
地ニ農業倉庫ヲ建設シ共同販賣ニヨリ農産物價格調節ヲ行ヒ會荷股  
券ヲ發售テ農民金融ニ資ス金融組合、勸業銀行ハ倉荷證券ヲ擔保ト  
スル貸付ヲ爲ヌ尙金融組合ハ農業倉庫ニ對シ直接組合員ノ倉入穀代  
金ヨリ出資金借入償却金ヲ取立得ルモノトス

購買組合ハ農具ノ共同購買ヲナシ共同使用ヲナサシムルコトニヨリ  
農業ノ大農合理化ヲ計ルモノトス

本案ノ特ニ意ヲ用ヒタル點

一 金融組合基礎確立迄ハ勸銀ヲ農業中央銀行トナシテ資金流出ヲ防  
止セントスルコト

外 務 省

0 353

一 國民心情ニ照シ低利資金ヲ得ント欲スル組合ノ債券發行ニ對シテハ勸銀ニ法律上第一次引受義務ヲ負擔セシメ勸銀債券ニハ富織附ヲ認メタルコト

二 金融組合統制機關トシテ資金運轉ニ困難ナル産業組合中央會ヲ排シテ勸銀ヲ置キ營利團體タル勸銀ト公共團體タル金融組合トノ經營精神ノ相違ヲ勸銀ニ對スル政府ノ特別保護ニヨリ解決シ債券ニヨリテ兩者ヲ有機的ニ聯繫スルコト

三 農業倉庫ト金融組合基礎ノ單化ヲ計ルコト  
四 尙聯合會ハ縣參事ノ指揮下ニオキ其ノ監督ニヨリ縣聯合會ヲシテ資金流動ノ圓滑ヲハカラシメ且ツ事務ノ煩雜ヲ避ケテ縣聯合會ヲ最高監督機關トシ縣參事之ヲ指揮スルコトニヨリ中央政府直接ノ

は(1)

外務省

監督ノ下ニ置カントスルコト  
六 組合ニ社團的性質ヲ附與シ之ニ對スル直接強制處分ヲ認ムル代價トシテ有限責任トセルコト

以上

は(1)

外務省



一 農民金融組合債券章程案

第一條 金融組合ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ組合債券ヲ發行スルコトヲ得

第二條 組合債券ハ大券及小券ノ二種トシ無記名利札附トス大券ノ券面金額ハ五十元以上トシ小券ハ五十元未満五元以上トス

第三條 組合ハ組合債券借換ノ爲一時第一條ノ制限ニ依ラス低利ノ組合債券ヲ發行スルコトヲ得

第四條 組合ニ於テ擔保貸付ニ依リ組合員ノ土地ノ上ニ抵押權ヲ有スルトキハ該土地ヲ抵當トスル債券ヲ發行スルコトヲ得

第五條 組合ニ對シ金融組合施行細則第三十一條ニ依リ組合員ヨリ貸付制限外借換申請アリタルトキハ該組合員ノ提供セル土地ヲ

は(一)

0 356

外務省

擔保トセル組合債券ヲ發行スルコトヲ得

第六條 前二條ノ債券ハ第一條ノ制限外發行トシ且大券ニ限ル

第七條 組合債券ハ勸業銀行ニ於テ組合トノ契約ニ依リソノ金額ヲ引受クルモノトス但シ小券ハ有獎割増金附トナシ賣出ノ方法ニ

依ルコトヲ得コノ場合ニ於テハ賣出期間ヲ定ムルコトヲ要ス  
組合債券大券ナルトキト雖組合ハ勸業銀行以外ノ者トノ契約ニ依リ總額引受ヲ爲サシムルコトヲ得

第八條 組合債券ノ消滅時効ハ元金ニ在リテハ十五年利子ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス

第二章 發行

第九條 組合債券ヲ發行セントスルトキハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ

7.6

0 357

外務省

金融組合聯合會ニ届出ツヘシ

一 組合名稱

ニ 組合債券ノ總額

三 各組合債券ノ金額及發行ノ方法

四 組合債券ノ利率

五 償還ノ方法及期限

六 數回ニ分チテ組合債券ノ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期

七 組合ノ出資金及拂込ミタル出資ノ總額

八 最終ノ貸借對照表ニ依リ組合ニ現存スル財産ノ額

九 前ニ組合債券ヲ發行シタルトキハソノ償還ヲ終ヘサル總額

は(イ)

外務省

7.6

0 358

第十條 前條ノ届出アリタルトキハ聯合會ハ過半ナク認可ノ可否ノ意見ヲ附シ民政部總長及財政部總長ニ届出ツヘシ

は(イ)

外務省

7.6

0 359



第十一條 民政部總長ハ財政部總長ノ意見ヲ徵シ認可スヘキヤ否ヤ  
ヲ決定シ之ヲ聯合會ニ通知ス

第十二條 聯合會前條ノ認可ヲ得タルトキハ直ニ之ヲ組合ニ通知シ  
且組合ニ代リ左ノ行爲ヲ爲スヘシ

一 勸業銀行其他トノ引受契約締結ニ要スル一切ノ行爲

二 組合債券小券ニシテ發行方法第七條但書ニ依ルトキハ賣出ニ必  
要ナル一切ノ行爲

第十三條 小券ノ賣出ヲ爲サントスルトキハ聯合會ハ左ニ掲クル事  
項ヲ公告スヘシ

一 發行組合名

二 賣出期間

外務省

7.6

0.360

一 組合債券發行ノ價額

二 第十條ニ掲クル事項

三 第十六條ニ規定スル事項

第十四條 賣出期間内ニ賣上ケタル組合債券ノ總額カ前條ノ規定ニ  
依リ公告シタル組合債券ノ總額ニ達セサルトキハ其ノ賣上總額ヲ  
以テ組合債券ノ總額トス

第十五條 第十二條第一號ノ契約成立シタルトキハ聯合會ハ遲滯ナ  
ク各組合債券ニ付其ノ全額又ハ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第十六條 前條ノ拂込アリタルトキ又ハ賣出期間滿了シタルトキハ  
聯合會ハ左ニ掲クル事項ヲ縣公署ニ於テ登記シ且之ヲ民政部總長  
及財政部總長ニ届出ツヘシ

外務省

7.6

0.361

は(イ)

一第九條第一號及第五號ニ掲クル事項

ニ各組合債券ニ付拂込ミタル金額

前項ニ掲クル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ登記ヲ爲シ變更ノ理由ヲ附シ之ヲ民政部總長及財政部總長ニ届出ツヘシ

第十七條 組合債券ハ全諾ノ拂込アリタル後ニ非レハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

第十八條 組合債券ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ組合長之ニ署名又ハ記名捺印シ聯合會ヲ經テ之ヲ發行ス

一組合債券ノ番號

ニ第九條第一號乃至第五號ニ掲クル事項

賣出ノ方法ニ依リ發行スル小券ニハ第九條第二號ニ掲クル事項ヲ

7.6

0 362

外務省

は(イ)

記載スルコトヲ要ス

第十九條 収入金ハ一切聯合會ニ於テ之ヲ收受シ拂込回ノ都度之ヲ

組合ニ移管スヘシ

第二十條 組合ハ主タル事務所ニ組合債券原簿ヲ備ヘ置クヘシ組合員及債權者ハ業務取扱時間内何時ニテモ組合債券原簿ノ閲覧ヲ求めルコトヲ得

7.6

0 363

外務省

第二十一條 組合債券原簿ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ  
 一 組合債券ノ數及番號  
 二 組合債券發行ノ年月日  
 三 第九條第二號乃至第六號ニ掲クル事項  
 四 各組合債券ニ付拂込ミタル金額及拂込ノ年月日  
 第三章 償 還  
 第二十二條 組合債券ノ償還ハ一切聯合會ヲ經テ之ヲ爲ス  
 第二十三條 組合ハ組合債券償還ノ爲組合整理基金ヲ置キノ歳入  
 歳出ハ一般ノ會計ト區別シ特別會計ヲ設置ス  
 第二十四條 組合債券整理基金特別會計ニ繰入ルヘキ預金及繰入額  
 ハ毎年民政部總長ノ認可ヲ受クヘシ

は(1)

7.6

0 364

外 務 省

第二十五條 第五條ノ組合債券ニハ前二條ノ規定ヲ適用セス  
 第五條ノ組合債券ハ金融組合施行細則第三十一條ニ規定スル各債  
 務者ノ償還金ヲ以テ直接之ヲ償還ス  
 第二十六條 金融組合法第八條ハ組合債整理基金ニ準用ス  
 第二十七條 組合債整理基金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ翌  
 年度へ繰越スヘシ

は(1)

7.6

0 365

外 務 省



農民販賣組合法案

第一條 販賣組合員ノ生産シタル物ヲ保管シ之ニ加工シ又ハ加工セ  
スシテ賣却シ以テ組合員ノ農業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル  
社團法人トス

第二條 販賣組合ハ左ノ業務ヲ營ム目的ヲ以テ農業倉庫ヲ經營スル  
モノトス但シ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 組合員ノ爲ニ其ノ生産物ヲ保管スルコト

二 組合員ノ爲ニ受寄物ノ販賣運送販賣ノ仲立及ヒ取次ヲ爲スコ  
ト

三 自己ノ作製シタル農業倉庫證券ヲ擔保トシテ貸付ヲナスコト

第三條 農業倉庫ノ經營ニ關シテハ特別法ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

外務省

0 366

第四條 販賣組合ハ數縣ノ區域ニヨリ販賣組合聯合會ヲ組織スルコ  
トヲ得

金融組合法第五條ニヨリ販賣組合ノ業務ヲ兼營スル金融組合ハ  
前項ニ關シテハ之ヲ販賣組合ト看做ス

第五條 販賣組合聯合會ハ其ノ區域中ノ主要地ニ於テ農業倉庫ヲ經  
營シ左ノ業務ヲ營ム但シ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 第二條ニ列舉セル業務ヲ營ムコト

二 所屬販賣組合ノ業務ノ仲立及取次ヲ爲スコト

三 所屬販賣組合カ擔保トシテ受取リタル農業倉庫證券ヲ擔保ト  
シテ貸付ヲ爲スコト

第六條 販賣組合聯合會ハ社團法人トス

外務省

0 367

第七條 販賣組合聯合會ハ所屬販賣組合ノ經營ヲ指導ス  
第八條 販賣組合ニハ本法ニ別段ノ規定アルモノノ外金融組合法ノ規定ヲ準用ス

外務省

0 368

三、農民購買組合法案

第一條 購買組合ハ組合員ノ爲ニ農業上必要ナル材料ノ貸付及ヒ共同購入ヲ爲シ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル社團法人トス

第二條 購買組合ハ左ノ業務ヲ營ムモノトス但シ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 組合員ノ爲ニ農業上必要ナル材料ノ貸付及ヒ共同購入ヲ爲スコト

二 組合員ノ爲ニ農業又ハ經濟ニ必要ナル物ヲ購入シ之ニ加工シ若ハ加工セシテ又ハ之ヲ生産シテ組合員ニ賣却スルコト

三 優良求畜ノ種付及分配ヲ爲スコト  
四 優良器具ヲ購入シテ之ヲ共同使用スルコト

外務省

0 369

は(4)

ニ農業上ノ技術及ヒ器具使用ノ指導ヲ爲スコト

第三條 前條ノ業務經營ノ爲必要アルトキハ主務官署ハ購買組合ノ

申請ニヨリ又ハ職權ヲ以テ農業技師ヲ派遣スルコト

第四條 購買組合ハ數縣ノ區域ニヨリ購買組合聯合會ヲ組織スルコ

ト

金融組合法第五條ニヨリ購買組合ノ業務ヲ兼營スル金融組合ハ

前項ニ關シテハ之ヲ購買組合ト看做ス

第五條 購買組合聯合會ハ所屬組合ノ購買スル物ヲ買入シ之ニ加工

シ又ハ加工セスシテ又ハ之ヲ生産シテ所屬組合ニ賣却スルコト

ヲ目的トス

第六條 購買組合聯合會ハ營利ノ目的ヲ以テ前條ノ業務ヲ營ムコト

7.6

外務省

0 370

は(4)

ヲ得ス

第七條 購買組合聯合會ハ社團法人トス

第八條 購買組合聯合會ハ所屬購買組合ノ經營ヲ指導ス

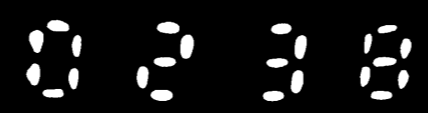
第九條 購買組合ニハ本法ニ別段ノ規定アルモノノ外金融組合法ノ

規定ヲ準用ス

7.6

0 371

外務省



四、農民金融組合法施行細則案

第一章 總 則

第一條 組合カ其ノ業務ヲ開始シタルトキハ直ニ縣長ニ届出ツヘシ  
新ニ設ケタル事務所ニ於テ業務ヲ開始シタルトキ亦同シ

第二條 組合ノ業務開始ハ縣長ノ認可ヲ以テ所屬金融組合縣聯合會  
(以下聯合會ト稱ス)ノ定ムル所ニ依ル

第三條 組合ノ休日ハ大同元年國務院令第五號所定ノ官署放假日期  
及事務所所在地ニ行ハルル一般休日ニ限ル但シ年末及除夕ハコノ  
限ニアラス

前項ニ定ムル休日ト雖モ春節執政萬壽節建國日ヲ除クノ外事務所  
ノ所在地又ハ近接都市ニ於ケル市場開設日相當スルトキハ休業ス

外 務 省

7.6

0 372

ルコトヲ得ス

第一項ノ外及ヒ前項ニ拘ラス休業ノ必要アルトキハ縣長ノ認可ヲ  
受クヘシ

第四條 組合ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日  
ニ終ル

第五條 組合ハ每事業年度ニ於ケル資金ノ運轉其他業務上ノ計畫ヲ  
定メ年度開始十五日前迄ニ民政部總長、縣長及聯合會ニ届出ツヘ  
シ但シ設立當初ノ年度ニ限り設立後遲滞ナク届出ツヘシ

第六條 組合ハ每事業年度ノ經費豫算ヲ定メ年度開始十五日前迄ニ  
縣長ニ提出シテ認可ヲ受クヘシ但シ設立當初ノ年度ニ限り設立後  
遲滞ナク提出スヘシ經費豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲サントスルトキ

外 務 省

7.6

0 373

ハ縣長ノ認可ヲ受クヘシ經費豫算ニ定メタル各項ノ金額ハ彼是流  
用スルコトヲ得ス

第七條 組合ハ左ノ事項ニ付テハ縣長ノ認可ヲ受クヘシ

一 業務職制給與旅費及ヒ身元保證金ニ關スル諸規定ノ制定又ハ變  
更

二 缺損補填準備金又ハ特別準備金ノ處分

三 業務用土地建物ノ取得若ハ處分又ハ業務用建物ノ新築改築増築  
若ハ大修繕

四 有價證券ノ買入又ハ賣却

五 預金及貸付金ノ利率決定

六 財産目錄ニ掲記シタル財産價格ノ増加

外務省

7.6

0 374

七 債務辨濟ノ爲ニ引受ケタル不動産ノ處分

縣長ハ民政部總長ノ承認ヲ受ケタル標準ノ範圍内ニ於テ前項第五  
號ノ利率ヲ認可スヘシ

縣長ハ民政部總長ノ承認ヲ受ケ本令ニ定ムルモノノ外必要アリト  
認ムル事項ニ付組合ヲシテ其ノ認可又ハ承認ヲ受ケシムルコトヲ  
得

第八條 組合ニ於テ資金ノ借入ヲ爲サントスルトキハ借入金額及借  
入ノ方法ヲ具シ縣長ノ認可ヲ受クヘシ

縣長ハ金融組合聯合會ノ意見ヲ徵シ認可スヘキヤ否ヤヲ決ス

第九條 組合カ金融組合債券ヲ發行セントスルトキハ金融組合債券  
章程ニ依ルヘシ

外務省

7.6

0 375



第十條 理事ノ給料及手當ハ民政部總長之ヲ指定ス  
組合ノ理事以外ノ役員ハ定款又ハ總會若ハ總代會ノ決議ニ依ルニ  
非レハ報酬ヲ受クルコトヲ得ス

は(イ)

外務省

U 376

第十一條 組合ニ於テ理事更迭シタルトキハ事務引繼書ヲ作成シテ  
事務ノ引繼ヲ爲シ其ノ副本ヲ縣長ニ提出スヘシ  
第十二條 總會又ハ總代會ヲ開カントスルトキハ開會十日前ニ會議  
ノ目的タル事項、開會ノ日時及場所ヲ縣長及聯合會ニ届出ツヘシ  
第十三條 總代會ハ三百人以上ノ組合員ヲ有スル組合ニ非レハ之ヲ  
設クルコトヲ得ス但シ縣長總代會ヲ必要ト認ムルトキハ組合ノ申  
請ニ依リ又ハ職權ヲ以テ民政部總長ノ認可ヲ受ケ之カ設置ヲ命ス  
ルコトヲ得

第十四條 總代會ヲ設ケントスルトキハ定款ニ總代ノ員數資格任期  
及ヒ選任ニ關スル規定ヲ設クヘシ  
第十五條 組合ハ毎月第一號様式ニ依ル實際報告表及ヒ第二號様式

外務省

U 377

ニ依ル業務月報ヲ作成シ翌月五日迄ニ縣長及金融組合聯合會ニ提出スヘシ

第十六條 財産目錄、貸借對照表、事務報告書及剩餘金處分案ハ別記様式第三號表ニヨリ作成スヘシ

第十七條 資金借入ノ認可申請書ニハ借入金額、利率期限、償還ノ方法及借入先ヲ記載スヘシ

第十八條 組合ノ公告ハ滿洲國政府公報並ニ組合事務所及組合ノ區域内ノ各村辦公所ニ於ケル揭示場ニ之ヲ爲スヘシ

第十九條 組合ノ監事ハ毎年二回以上組合ノ財産及業務執行ノ狀況ヲ監査シ其ノ結果ヲ縣長及聯合會ニ届出ツヘシ

第二十條 出資一口ノ金額減少ノ認可申請書及總會ノ決議ニヨリ解

外 務 省

0 378

散ノ認可申請書ニハ財産目錄及貸借對照表ヲ添付スヘシ

第二十一條 合併ノ認可申請書ニハ合併契約書、財産目錄、貸借對照表及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添付スヘシ

第二十二條 組合カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ縣長ニ届出ツヘシ

第二十三條 組合ノ清算人ハ金融組合法第十九條ノ規定ニ依リ總會ノ承認ヲ得タルトキハ財産目錄及貸借對照表ヲ縣長ニ届出ツヘシ  
清算人ハ毎月清算事務報告書及貸借對照表ヲ縣長ニ提出スヘシ

第二十四條 金融組合法又ハ本令ニ依リ監督官署及聯合會ニ提出スル書類ニシテ總會、總代會又ハ評議員會ノ決議ヲ經ヘキ事項ニ係

外 務 省

0 379

ルモノハ其ノ決議録ヲ添付スヘシ

第二十五條 組合ハ新ニ加入スルモノヨリ加入金ヲ徴シ又ハ新ニ出資口數ヲ増加スル者ヨリ増口金ヲ徴スルコトヲ得ス

外務省

U 380

第二十六條 毎事業年度ニ於ケル損益計算上未拂利子及未收利子ハ

本令ニ別段ノ定ヲ爲スモノノ外左ノ二號ニ依リ之ヲ處理スヘシ

一 定期預金及借入金ノ未拂利子ニシテ其ノ年度ノ負擔ニ屬スヘキ

額ハ之ヲ支出ニ立ツヘシ

二 未收利子ハ收入ニ立ツルコトヲ得ス但シ預金及所有有價證券ノ

利子ニツイテハ此ノ限りニアラス

第二十七條 金融組合法又ハ本令ニ依リ縣長ニ提出セラレタル書類

ニシテ中央政府官署之ヲ必要トスルトキハ縣長ヲシテ之ヲ提出セシム

第二章 貸付

第二十八條 一組合員ニ對スル貸付ノ總額ハ五百元ヲ超過スルコト

外務省

7.6

U 381

得ス（以下之ヲ無擔保貸付ト稱ス）但シ左ノ物件ヲ擔保トスル  
 トキハ千五百元迄ヲ貸付スルコトヲ得（以下之ヲ擔保貸付ト稱ス）  
 一 不動産  
 二 不動産上ノ權利  
 三 地方流動硬貨  
 四 拂戻ニツキ期限ノ定メアル金融組合ニ對スル預金證書又ハ民政部  
 部長ノ指定スル銀行ノ發行スル銀行券  
 五 國債證券又ハ民政部部長ノ認可シタル有價證券若ハ債權  
 六 農業倉庫證券

第二十九條 貸付ノ期間ハ一年内トス但シ災害其他特別ノ事由アル  
 トキハ利子ノ支拂ヲ怠ラサル者ニ限り其ノ期間ヲ更新スルコトヲ

外務省

7.6

0 382

得（以下之ヲ短期貸付ト稱ス）  
 貸付金ノ用途ノ性質長期ノ償還ヲ必要トスルトキハ前條第一號第  
 二號第四號第五號ニ規定スル物件ヲ擔保トスル場合ニ限り十年内  
 ノ年賦償還又ハ五年内ノ定期償還ノ方法ニ依リ之ヲ貸付スルコト  
 ヲ得  
 貸付金ノ用途ノ性質長期ノ償還ヲ必要トスルモ前項ニ掲タル擔保  
 ヲ有セサル者ニ對シテハ定款ニ別段ノ定アル場合ノ外確實ナル保  
 證人二名ヲ立テシメ五年内ノ年賦償還又ハ月賦償還ノ方法ニヨリ  
 貸付スルコトヲ得但シ其ノ貸付金總額ハ出資拂込金及準備金ノ總  
 額ヲ超ユルコトヲ得ス（以下前項及本項ノ貸付ヲ長期貸付ト稱ス）  
 第三十條 長期貸付ニ要スル資金ハ聯合會又ハ勸業銀行ヨリノ借入

外務省

7.6

0 333

金ヲ以テ之ニ充ツヘシ

外務省

は(イ)

0 384

REEL No. A-0878

0 3 8 4

アジア歴史資料センター

第三十一條 組合員第二十八條ノ制限ヲ超ユル貸付金ヲ必要トスル  
トキハ金額擔保物件及ヒ償還方法ヲ記載セル借入申請書ヲ組合ニ  
提出スヘシ  
組合ハ前項ノ申請アリタルトキハ金融組合債券章程ニヨリ勸銀ヨ  
リ得タル借入金ヲ以テ貸付ヲ爲スヘシ  
第三十二條 組合ハ組合員ノ信用状態ヲ調査シ信用程度表ヲ作り異  
動ノ都度之ヲ整理スヘシ  
前項ノ調査ハ毎年少クトモ一回以上之ヲ爲スコトヲ要ス  
貸付ノ金額ハ信用程度表ニ基キ資金ノ用途ヲ斟酌シテ之ヲ決定ス  
ヘシ但シ擔保貸付ヲ爲ス場合ニアリテハ信用程度表ニ基クコトヲ  
要セス

外務省

7.6

0 385

第三十三條 組合カ無擔保貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ定款ニ別段ノ定  
アル場合ヲ除クノ外確實ナル保證人ヲ立テシムルコトヲ要ス  
前項ノ場合ニ於テ組合員ヲ保證人トナスニハ其ノ組合ニ對スル債  
務ト保證債務トヲ合セテ前條ノ信用程度表ニヨル信用程度ヲ超過  
セサル場合ニ限ル  
第三十四條 擔保貸付金額ハ組合ニ於テ鑑定シタル擔保評價額ノ十  
分ノ八以內トス  
第三十五條 土地ノ評價ハ實地ニ就キ其ノ所在等級面積收穫量等ヲ  
調査シ且ツ土地臺帳ノ地價及附近ノ實際買買價格等ヲ斟酌シテ之  
ヲ決定スヘシ  
建物ノ評價ハ實地ニ就キ其ノ所在構造用材使用法及將來使用ニ堪

外務省

7.6

0 386

フヘキ年限等ヲ調査シテ之ヲ決定スヘシ

第三十六條 不動産ヲ擔保トシテ徵スル場合ニ於テハ抵押權設定ノ登記ヲナスヘシ

前項ノ抵押權設定ハ第一順位ナルコトヲ要ス但シ組合ヨリ借入スル新債ヲ以テ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ第一順位トナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニアラス

第三十七條 擔保トシテ徵シタル有價證券拂戻ニ付期限ノ定アル預金證書又ハ銀行券ハ組合ニテ保管シ且ツ之ヲ以テ第三債務者其他第三者ニ對抗スヘキコトヲ得ヘキ決定ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十八條 組合ハ縣公署ニ於テ印鑑證明章程ニ依リ證明ヲ受ケタル組合員ノ印鑑ヲ備ヘ貸付ノ都度借主ノ印章ト照合スヘシ但シ縣

は(イ)

7.6

0 387

外務省

長ノ許可ヲ受ケ其他ノ證明方法ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第三十九條 貸付金ノ利子ハ貸付ノ日ヨリ償還ノ日迄日割ニ依リ之ヲ計算スヘシ

貸付金ノ利子ハ數回ニ分割シテ徵スルコトヲ得

第四十條 貸付金及其ノ利子ニ對スル遅延利子ハ貸付金ノ利率ニ其ノ十分ノ三ヲ加ヘタル割合ヲ超過スルコトヲ得ス

は(イ)

7.6

0 388

外務省

第四十一條 組合員カ貸付ノ目的ニ反シ貸付金ヲ使用シタルトキ又ハ分割辨済ノ場合ニ於テ其ノ辨済ヲ怠リタルトキハ組合ハ償還期限前ト雖モ貸付金全部ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

第四十二條 組合員ハ償還期限前ト雖モ貸付金ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ組合ハ手数料ヲ請求スルコトヲ得ス且拂込期日迄ノ期間ニ應シ利子ノ割引ヲ爲スヘシ

第四十二條ノ二 組合員ハ所屬組合ノ發行セル組合債券ヲ以テ償還ヲ爲スコトヲ得

第三章 預り金

第四十三條 預り金ノ種類ハ定期預金、貯蓄預金及据置貯金トス

外務省

7.6 0 389

第四十四條 定期預金ハ其ノ額二十元以上ニシテ期間六月以上ノモノニ限ル

第四十五條 貯蓄預金ハ複利ノ方法ニ依リ一回五元乃至一角ノ金額ヲ預金トシテ受入ルルモノトス

第四十六條 貯蓄預金ノ利子ハ預入ノ日ヨリ拂戻ノ前日迄ノ日數ヲ計算シテ之ヲ附スヘシ

第四十六條ノ二 貯蓄預金ノ利子ハ毎年二月及八月ニ之ヲ計算シ之ヲ元加トナスヘシ

第四十七條 据置預金ハ豫メ拂戻ノ期限ヲ定メ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ預金ヲ受入ルルモノトス

第四十八條 据置預金ノ集金ヲ爲ス場合ハ其ノ集金方法ヲ一定シ之

外務省

7.6 0 390





ヲ据置預金ニ關スル證書ノ約款ニ記載スヘシ中途解約ノ場合ニ於ケル利子ノ支拂ニ付又同シ

第四十九條 組合員ニ非サルモノノ預リ金ハ一人ニ付三千元ヲ超過スルコトヲ得ス

組合員ニ非サルモノノ預リ金ハ出資總額、缺損補填準備金及特別準備金ノ合計額ノ二倍ヲ超エテ之ヲ受入ルルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ組合員ト同居スル家族其他ノ親族、公共團體又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ノ預リ金ニ付テハ之ヲ適用セス

第五十條 組合ハ預金ノ拂戻準備トシテ預リ金總額ノ十分ノ二以上ヲ備ヘ置クヘシ

金融組合法第九條ノ規定ハ前項ノ拂戻準備金ニ之ヲ準用ス

外務省

7.6

0 391

第四章 金融組合聯合會

第五十一條 理事長及理事ハ民政部總長之ヲ任命シ其ノ給料及手當モ亦民政部總長之ヲ指定ス

監事ハ定款又ハ總會ノ決議ニ依ルニアラサレハ報酬ヲ受クルコトヲ得ス

第五十二條 總代會ヲ開カントスル時ハ總會ヲ開キ得サル理由ヲ記載シタル申請書ヲ提出シテ縣長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十三條 貸付金ノ期間ハ五年ヲ超ユルコトヲ得ス但シ所屬組合ノ長期貸付ニ要スル資金ハ十年内ノ年賦償還ノ方法ニ依リ貸付ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 貸付金額ハ資産ノ状態及資金ノ用途ヲ斟酌シテ之ヲ決

外務省

7.6

0 392

定スヘシ

第五十五條 貸付期間三年内ノ場合ニ限リ當座預金貸越ノ方法ニ依リ貸付ヲ爲スコトル得

第五十六條 預リ金ノ種類ハ定期預金及當座預金トス

第五十七條 定期預金ハ其ノ額五十元以上ニシテ期間六ヶ月以上ノ

モノニ限ル

第五十八條 聯合會ハ預金ノ拂戻準備金トシテ預金總額ノ十分ノ一

以上ヲ備ヘ置クヘシ

金融組合法第九條ハ前項ノ拂戻準備金ニ之ヲ準用ス

聯合會ハ第一次ノ拂戻準備金カ預金總額ノ十分ノ一ニ満たサル

ニ至リタルトキハ之ヲ補填スル迄ハ新規ノ貸付ヲ停止ス

外務省

7.6

0 393

第五十九條 所屬組合ノ債券ニ關スル事項ハ一切金融組合債券章程ニ依ル

第六十條 聯合會ハ資金ニ關スル業務ニ付勸業銀行ノ指導ヲ受クヘ

外務省

7.6

0 394

第六十一條 聯合會ハ常ニ所屬組合ノ資金ノ運轉其他業務ノ經營ニ留意シ之カ指導ヲ怠ラサルコトヲ要ス

第六十二條 聯合會ハ何時ニテモ所屬組合ヲシテ其業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

第六十三條 聯合會ハ毎年一回以上所屬組合ニツキ業務ノ調査ヲ爲スヘシ

前項ノ調査ヲ爲シタルトキハ其ノ調査ノ要領ヲ縣長及民政部總長ニ届出ツヘシ

第六十四條 所屬組合法令若ハ定款ニ違反シタルトキ又ハ其他ノ事由ニ依リ民政部總長又ハ縣長ノ命令又ハ處分ヲ必要トスル場合ニ於テハ聯合會ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ民政部總長又ハ縣長ニ具申スヘシ

外務省

0 395

第六十五條 聯合會ニ對スル政府貸下金及補助金ノ使途ハ之ヲ民政部總長ニ届出テ其ノ認可ヲ受クヘシ

第六十六條 所屬組合ニ對スル政府貸下金及補助金ノ分配ニ關シテハ聯合會分配案ヲ縣長ニ具申スヘシ

第六十七條 聯合會カ協議會又ハ講習會ヲ開催セントスルトキ豫メ其ノ旨ヲ民政部總長ニ届出ツヘシ

第六十八條 聯合會ハ所屬組合及他ノ聯合會トノ聯絡ノ圓滑ヲ圖リ以テ地方金融ノ調節ニ留意スヘシ

聯合會金融組合法第十二條ノ命令ヲ必要ト認ムルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ民政部總長又ハ縣長ニ具申スヘシ

第六十九條 聯合會ハ毎月第四號様式ニ依ル實際報告表及第五號様

外務省

0 396

式ニ依ル業務月報ヲ作成シ翌月五日迄ニ民政部總長ニ提出スヘシ  
第七十條 財産目錄貸借對照表事業報告書及剩餘金處分案ハ別記第  
六號様式ニ依リ作成スヘシ

外  
務  
省

7.6

0 397

REEL No. A-0878

0 3 9 7

アジア歴史資料センター

第七十一條 組合ノ加入ヲ承諾シタルトキハ聯合會ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ縣長ニ届出ツヘシ

第七十二條 第一條乃至第八條一項第十一條乃至第十四條第十七條乃至第二十七條第四十條乃至第四十二條第四十九條ノ規定ハ聯合會ニ之レヲ準用ス但シ理事トアルハ理事長トス

第四十六條及第四十六條ノ二ハ之ヲ聯合會ノ當座預金ニ準用ス

第七十三條 本令及金融組合法ノ規定ニシテ地方ノ事情ニヨリ聯合會之ヲ施行スヘカラスト認ムルトキハ之ヲ民政部總長ニ具申シ以テ施行停止ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニシテ一時應變ノタメ必要ト認ムルトキハ縣長ニ之ヲ申請スヘシ

外務省

7.6 0 398

第五章 罰則

省略

◎備考

一 本令中第一號乃至第六號ノ書類様式ハ別ニ之ヲ騰寫ス

二 罰則ハ立案中ナリ

三 購買組合法及販買組合法ノ施行細則ハ別ニ之ヲ定ムルモ大體本令ニヨルモノトス

以上

外務省

7.6 0 399

農民金融組合法案

第一章 總則

第一條 金融組合ハ組合員ノ金融ヲ緩和シ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル社團法人トス

第二條 金融組合ノ組合員ハ組合ノ區域内ニ於テ住所又ハ耕作地ヲ有スルモノニ限ル

第三條 金融組合ノ住所ヘ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第四條 金融組合ノ名稱中ニハ金融組合ナル文字ヲ用ユルコトヲ要ス

金融組合ニアラスシテ其ノ名稱中ニ金融組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

外務省

は(1)

U 400

第五條 金融組合ハ左ノ事務ヲ營ムモノトス但シ營利ノ目的ヲ以テ之ヲナスコトヲ得ス

一 組合員ニ對シ其ノ經濟ノ發達ニ必要ナル資金ヲ貸付スルコト

二 組合員ノ爲ニ預リ金ヲ爲スコト

金融組合ハ主管官署ノ認可ヲ受ケ販賣組合及ヒ購賣組合ノ業務ヲ兼營スルコトヲ得

販賣組合及購賣組合ノ業務ニ關シテハ別ニ定ムル所ニヨル

第六條 金融組合ハ主管官署ノ認可ヲ受ケ組合ニアラサル者ノ預リ金ヲ爲スコトヲ得

第七條 金融組合ハ主管官署ノ認可ヲ受ケ銀行又ハ主務官署ノ指定シタル金融業務ヲ營ム法人ノ業務ヲ代理シ又ハソノ業務ノ媒介ヲ

外務省

0 401

爲スコトヲ得

第八條 金融組合ハ主管官署及所屬縣金融組合聯合會ノ認可ヲ受ケ  
債券發行等ノ方法ヲ以テ借入金ヲ爲スコトヲ得

第九條 業務上ノ餘裕金ハ一時主務官署ノ指定スル有價證券ヲ買入  
レ又ハ所屬金融組合縣聯合會若ハ主管官署ノ指定シタル銀行ニ預  
ケ金ヲナス外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十條 金融組合ハ業務ノ爲必要ナル物件ヲ取得シ又ハ債務辨濟ノ  
爲メ物件ヲ引受クル場合ヲ除クノ外動産又ハ不動産ヲ所有スルコ  
トヲ得

第十一條 主務官署ハ必要ト認ムルトキハ金融組合ノ業務ヲ制限ス  
ルコトヲ得

は(一)

外務省

0 402

第十二條 金融組合ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ

主管官署ノ命令アリタルトキハ地方金融ノ調節ニ關スル業務ヲ營  
ム事ヲ得

第十三條 金融組合ハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外商人通  
例及商人通例施行細則ノ規定ヲ準用ス

第十四條 本法ニ定ムルモノノ外金融組合ニ關シ必要ナル事項ハ主  
管官署之ヲ定ム

第十四條ノ二 金融組合ニハ一切ノ租稅ヲ免ス

は(一)

外務省

0 403

第二章 設立

第十五條 金融組合ヲ設立セントスルトキニハ定款ヲ作り主務官署ノ許可ヲ受クヘシ

第十六條 定款ニハ本法ニ規定アルモノノ外左ノ事項ヲ記載シ設立者之ニ署名捺印スヘシ

一 目的

二 名稱

三 區域

四 事務所

五 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

六 第一回拂込ノ金額

は(イ)

外務省

7.6

0 404

七 準備金積立ノ方法

八 組合員タル資格ニ關スル規定

九 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

一〇 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタル時ハ其ノ時期又ハ事由

一一 業務ノ執行ニ關スル規定

第十七條 金融組合ノ設立ヲ許可スル爲必要アリト認ムルトキハ主務官署ハ既設組合ノ區域及事務所所在地ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十八條 金融組合ハ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得

第十九條 出資一口ノ金額八十元以上三十元以下トシ均一ニ之ヲ定ムヘシ

第二十條 金融組合カ其ノ設立ノ許可ヲ受ケタル時ハ遲滞ナク各組

は(イ)

外務省

7.6

0 405



合員ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ  
 第二十一條 前條ノ拂込アリタルトキハ二週間内ニ所屬縣公署ニ於  
 テ左ノ事項ヲ登記スヘシ  
 一 第十六條第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項  
 二 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額  
 三 設立許可ノ年月日  
 四 組合長理事及監事ノ氏名及住所  
 金融組合ノ設立ハ前項ノ登記ヲ爲スニアラサレハ之ヲ以テ他人  
 ニ對抗スルコトヲ得ス  
 第二十二條 前條ノ登記事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ新ニ事務所  
 ヲ設ケタルトキハ二週間内ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ前條第二項ノ規

は(イ)

0 406

外務省

定ハ本條ニ之ヲ準用ス  
 第二十三條 行政區畫又ハ土地ノ名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿  
 ハ當然變更セラレタルモノト看做ス  
 前項ノ變更アリタルトキハ金融組合ハ遲滞ナク之ヲ縣公署ニ通知  
 スヘシ  
 前項ノ通知アリタルトキハ縣公署ハ登記簿ノ記載ヲ變更スヘシ  
 第二十四條 前條ノ規定ハ第十七條ノ場合ニ之ヲ準用ス

は(イ)

0 407

外務省

は(一)

第三章 組合員ノ權利義務

第二十五條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

第二十六條 組合員ノ責任ハ其ノ出資額ヲ限度トス

第二十七條 組合員ハ拂込ムヘキ出資ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十八條 組合員ハ組合ノ承諾アルニ非レハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第二十九條 組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス

第三十條 持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ權利義務ヲ承繼ス

第三十一條 組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得總會ノ目的及ヒ其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總會ノ招集ヲ組合

7.6

0 408

外務省

は(一)

長ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ組合長ハ二週間内ニ總會ヲ招集スヘシ

第三十二條 總會ノ招集手續又ハ其ノ決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ違反シタルトキハ組合員ハ決議ノ日ヨリ一月内ニ其ノ決議ノ取消

ヲ主務官署ニ請求スルコトヲ得

7.6

0 409

外務省



第四章 管理

第三十三條 金融組合ニ會長一人理事一人監事二人以上及評議員七名以上ヲ置ク

組合長監事、評議員ハ組合總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス  
理事ハ主務官署之ヲ任免ス

組合長ノ選任ハ公署長官ノ認申ヲ受クルニ非レハ其ノ效力ヲ生セス

第三十四條 監事ハ組合長、理事其他組合ノ職員ト相兼スルヲ得ス  
第三十五條 組合長ノ任期ハ三年トシ監事及評議員ノ任期ハ二年ト

ス但シ任期中ノ最終ノ決算期ニ關スル定期總會ノ終結至ル迄其ノ任期ヲ伸長スルコトヲ得

外務省

は(1)

0 410

第三十六條 組合長及監事ノ選任ハ組合員ノ半數以上出シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第三十七條 組合長ハ理事ト共同シテ金融組合ヲ代表ス但シ組合ノ常務ニ付テハ定款ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

組合及理事ニ對シテ爲シタル意思表示ハ組合ニ對シテ其ノ效力ヲ生ス

組合長ハ總會及評議員會ノ議長トナル  
組合長及理事アルトキハ理事之ヲ代理シ役員ノ場合ハ其ノ職務ヲ行フ

第三十八條 組合長又ハ理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

外務省

0 411

第三十九條 組合長及理事ハ定款ノ定ムル所ニヨル金融組合ノ業務ヲ執行ス

第四十條 金融組合カ組合長又ハ理事ト契約ヲ爲スル合ニ於テハ該事組合ヲ代表ス組合ト組合長又ハ理事トノ間ノ訴訟ニ付亦同シ

は(イ)

外務省

7.6

0 412

REEL No. A-0878



アジア歴史資料センター

第四十一條 組合長及理事ハ定款又ハ總會ノ決議ニヨリテ禁止セラレサルトキニ限り或種類又ハ特定ノ事項ニ付他ノ人ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第四十二條 理事ハ前數條ノ規定ニヨル業務ヲ執行スル外金融組合經營各般ノ事項ヲ指導ス

第四十三條 監事ハ金融組合ノ財産及業務執行ノ狀況ヲ監査ス

監事ハ組合ノ財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付不整ノ態アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ主務官署ニ具申スヘシ

第四十四條 評議員ハ評議員會ヲ組織ス

評議員會ハ組合長之ヲ招集ス

評議員會ハ本令又ハ定款ニ定メタル事項ヲ決議シ其ノ決議方法ハ

外務省

7.6

0 413

定款ノ定ムル所ニ依ル  
評議員ハ金融組合ノ業務ニ關シ組合長及ヒ理事ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十五條 定時總會ハ毎年一回定款ニ定メタル時期ニ於テ組合長之ヲ招集ス

第四十六條 臨時總會ハ必要アルトキハ組合長之ヲ招集ス

第四十七條 組合長及理事缺員ノ場合ハ總會ノ招集ハ監事之ヲ執行ス

組合長及ヒ理事カ第三十一條ノ規定ニ依ル請求アリタル日ヨリ二週間内ニ正當ノ事由ナクシテ總會招集ノ手續ヲナサハルトキハ監事ハ其ノ總會ヲ招集スヘシ

外務省

7.6

0 414

第四十八條 總會ノ招集ハ少クとも十日前ニ其ノ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ各組員ニ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四十九條 總會ニ於テハ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノミ決議ヲナスモノトス

第五十條 總會ノ決議ハ本令又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

外務省

7.6

0 415

第五十一條 組員ノ議決權ハ平等トス

第五十二條 組員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス

第五十三條 金融組合ハ主務官署ノ定ムル所ニヨリ定款ヲ以テ總會ニ代ルヘキ總代會ヲ設ケルコトヲ得

總會ニ關スル規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス但シ總代會ニ於テハ解散及合併ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス

第五十四條 金融組合ト或組員、總代又ハ評議員トノ關係ニ付決議ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ組員、總代又ハ評議員ハ議決權ヲ有セス

第五十五條 組合長ハ定時總會ノ日ヨリ一週間前ニ財産目録貸借對

外務省

7.6

0 416

照表、專業報告書及剰余金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フヘシ  
組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第五十六條 組合長及理事ハ前條第一項ニ掲ケタル書類及監事ノ意見書ヲ定時總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

組合長及理事ハ前項ノ承認ヲ經タルトキハ二週間内ニ其ノ書類ヲ主務官署ニ提出シ且貸借對照表ヲ公告スヘシ

第五十七條 定款ハ總會ノ決議ヲ經主務官署ノ認可ヲ受クルニアラサレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第三十六條ノ規定ハ決議ニ之ヲ準用ス

外務省

0 417

第五十八條 金融組合ハ定款及總會ノ決議録ヲ事務所ニ備ヘ置キ且組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クヘシ  
組合員及ヒ組合ノ債務者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第五十九條 組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 各組合員ノ氏名及住所

二 各組合員ノ出資口數

三 出資各口ニ付拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日

四 出資各口ノ取得ノ年月日

第六十條 金融組合カ出資一口ノ金額ノ減少ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目録及貸借對照表ヲ作ルヘシ組合ハ

外務省

0 418

前項ノ期間内ニ其ノ債権者ニ對シ異議アルトキハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ定款ノ定ムル方法ニ從ヒテ公告シ且知レタル債権者ニ各別ニ之ヲ報告スヘシ但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ス

は(イ)

外務省

7.6

0 413

第六十一條 債権者カ前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シ異議ヲ述ヘサリントキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス  
債権者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨償ヲナシ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非レハ出資ヲ減少スルヲ得ス

は(イ)

第六十二條 金融組合ノ事業年度ハ一年トス  
第六十三條 金融組合ハ損失ヲ填補シタル後ニ非レハ剰余金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第六十四條 金融組合ハ缺損填補準備金トシテ其ノ出資總額ニ達スル迄毎事業年度ノ剰余金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ  
剰余金ハ拂込出資額ニ應シ年七分以下ノ割合ヲ以テ配當ヲ爲スコトヲ得但シ組合員カ其ノ出資ノ拂込ヲ終ル迄ハ配當スヘキ剰余金

7.6

0 420

外務省

